

相葉雅紀 主演

長嶋茂雄 名誉監督がエールを送った小説がスクリーンへ！

実話を元にした感動の物語

映画『4アウト -もう一度、プレイボール-』

株式会社ピーアンドディコンサルティングが製作委員会に参画する、相葉雅紀 主演映画『4アウト -もう一度、プレイボール-』が11月6日(金)全国公開することが決定いたしました！

相葉雅紀 主演！長嶋茂雄名誉監督が熱いエールを送った小説
「4アウト -ある障害者野球チームの挑戦」
実話を元にした感動の物語がついにスクリーンへ！

社会人野球を戦力外となり、夢をあきらめた主人公・矢上（相葉雅紀）は再就職先として選んだ障害者スポーツセンターで、野球をやりたい障がい者たちと出会う。“障がい者に野球は無理”と決めつけられ、反対される中、矢上は彼らの監督として野球チームを作ることに。一度は挫折しながらも、野球を愛し続ける人間たちそれぞれの人生が交わり、「全国身体障害者野球大会」で日本一を目指し挑戦を始める。

東京に初めて結成された身体障害者野球チーム「東京ブルーサンダース」創設にまつわる実話をもとに、奇跡の物語が誕生した。

タイトルの“4アウト（読み：フォーアウト）”には、人生は、3アウトでは終わらない、挫折をしても決して諦めずまた歩き出す、というポジティブなメッセージが込められている。

原作は、作家平山譲氏による小説

「4アウト -ある障害者野球チームの挑戦」（中央公論新社刊）。

“もうひとつのWBC”と言われる「世界身体障害者野球大会」

第1回大会実行委員長（以降、大会名誉顧問）である

長嶋茂雄読売巨人軍終身名誉監督が

「挑むことを諦めない。だから人生は楽しい。」と熱いエールを送った作品だ。



主人公・矢上を演じるのは、相葉雅紀。昨年11月7日にクランクイン、今年2月15日にクランクアップ。前橋市、太田市、伊勢崎市、高崎市、桐生市といった群馬県各地と、一部都内にて撮影が行われた。

11月6日(金)TOHOシネマズ 日比谷ほか全国ロードショー

■相葉雅紀 コメント全文

脚本を初めて読んだときは、ノンフィクションなのにこんなにもドラマチックなお話があるのかと、心を揺さぶられました。

今回の作品で「障害者野球」という世界にはじめて触れましたが、実際に選手たちのプレーを見て、投げる球は速いしキャッチングも上手く、グローブのさばき方も巧みで驚きました。ひとりひとり環境が異なり教科書のような正解があるわけではないなか、自分なりに最善のプレーができるやり方を見つけていたり、装具があったりなど、目を見張るものがたくさんありました。

共演した野球チームのメンバーとは何度か食事に行ったり、ノックやキャッチボールなどの練習を通じて、心のキャッチボールもできた気がしています。共演者の中には、実際に障害者野球チームに所属してやっている方もいらっしゃるし、アスリートのように体が動く方ばかりなので、遠慮なくノックを打たせてもらいました。

撮影が進むごとにチームの結束力、チームワークがどんどん良くなっていったと思います。試合のシーンでは撮影するのが困難なカットも、チームのみんなで乗り越えて作りましたので、完成した作品を楽しみにしていただけただけなら嬉しいです。

■身体障害者野球とは

障害者手帳を持つ選手たちが軟式ボールを使って行う野球で、障害の特性に配慮した独自のルールが適用される。

世界の盗塁王・福本豊氏の「キャッチボールやろうや！」の一言から、1993年に特定非営利活動法人日本身体障害者野球連盟(JDL)が発足。33年経過した現在、全国36チーム、登録選手約1,000名が、毎年春と秋の全国大会を目指して活動している。

2006年WBCでの日本の優勝をきっかけに、日本で開催された「世界身体障害者野球大会(もうひとつのWBC)」は、長嶋茂雄名誉監督が自ら大会の実行委員長(第2回大会以降は、大会名誉顧問)を引き受け、以降、WBCと同じ4年おきに開催されている。今年、第6回大会が11月に北九州市で開催され、日本代表チームは三連覇と5度目の世界一を目指している。

**人生は、3アウトでは終わらない。明日へ踏み出す勇気がもらえる、今年一番の感動作
『4アウトーもう一度プレイボールー』続報をお楽しみに！**

■『4アウトーもう一度、プレイボールー』公式サイト

4out-movie.com

公式X：@4out_movie

11月6日(金)TOHOシネマズ 日比谷ほか全国ロードショー